

小児成人病健診に関する検討

(分担研究：小児期の成人病危険因子の効果的検出法の開発に関する研究)

藪内 百治, 牧 一郎

要約：成人病危険因子の効果的検出方法を検討する一環として、高コレステロール血症者を発見するために対象年齢や方法を変えて小児成人病健診を行い、以下の結果を得た。①動脈硬化に関係する血清脂質異常を効率よく検出する採血項目としては、血清総コレステロール単独か血清総コレステロールとHDLコレステロールの併用が良い。②健診は低年齢で行うよりは児童生徒で行う方が発見される異常者の絶対数は増える。③ハイリスク者を選んで健診する方法は異常者の発見効率が高くなる。④小児成人病健診を行う方法として学校単位での集団健診は有力な方法であるが医師会などの協力が得られれば病院、開業医を窓口にした方法をとることができる。と考えられた。

見出し語：小児成人病健診、動脈硬化、高コレステロール血症者、HDLコレステロール、肥満

【はじめに】 近年心筋梗塞や脳梗塞など動脈硬化を基礎疾患とする疾病の増加が憂慮されている。動脈硬化が小児期より徐々に進行する病態であることより肥満や高脂血症などの成人病危険因子を小児期に発見し、動脈硬化性疾患の予防を行うことがこれからの課題と考えられている。成人病危険因子の効果的検出方法を検討する一環として高コレステロール(以下CH)血症者を発見するために対象年齢や方法を変えて小児成人病健診を行い検討をおこなった。

I. 中学校での成人病健診

【研究方法】 経済効率のよい高CH血症小児の

検出法を検討するために、昨年度に報告した中学生585名での健診結果を詳細に分析した。血清総CH値は200mg/dl以上を、血清LDLCH値は130mg/dl以上を、動脈硬化指数(AI)は3.0以上を、血清HDLCH値は40mg/dl以下を、肥満度は20%以上を異常とした。各測定値については、昨年度の報告書に詳細を示した。

【結果】 表1に異常項目を持つ生徒の数を示した。

表2に、高CH血症者と非高CH血症者に分けて、各脂質の平均値を示した。また、下段に高CH血症者の内の高HDLCH者の割合を示した。

大阪府立母子保健総合医療センター(Osaka Medical Center and Research Institute for maternal and child health) 市立池田病院小児科(Dep. of Pediatrics, Ikeda Municipal Hospital)

この希望者を募る過程で家族歴を有するようなハイリスクの人ほどよく受診するようなバイアスがかかり異常者の発見頻度が増加する原因になっていることも考えられた。

一方昨年度の集団健診の方式で異常者を発見する方法で行った中学生の健診は、総受診者数585名中高CH血症者は17%、肥満者は16%であった。これは、加齢とともに高CH血症や肥満が増加することから、低年齢での健診より異常者の発見が多かったと考えられた。健診の実施年齢は、異常者を効率よく発見できることと発見された異常者がうまく治療できることが必要条件であり、

中学生が最適であるかは本検討では結論できないが幼児期早期よりは、大きな年齢が良いと考えられた。

【まとめ】 ①健診は低年齢で行うよりはあていど年齢が大きい方が発見される異常者の絶対数は増える。②ハイリスク者を選んで健診するほうが異常者の発見効率が高くなる。③小児成人病健診を行う方法として学校単位での集団健診は有力な方法であるが医師会などの協力が有れば病院、開業医を窓口にした方法もとることができると考えられた。

表1 異常項目を持つ生徒数

	男子(n=292)	女子(n=293)	
T. ch 200mg/dl以上	32(11%)	69(24%)	
LDL. ch 130mg/dl以上	20(7%)	30(10%)	
HDL. ch 40mg/dl未満	6(2%)	6(2%)	
A. I. 3.0 以上	10(3%)	12(4%)	
肥満度 20% 以上	48(16%)	47(16%)	
合計	82(28%)	115(39%)	全体197(34%)

表2 高CH血症者の検討

	男子		女子	
	高CH血症	非高CH血症	高CH血症	非高CH血症
n	32	260	69	224
TCH	217	164	218	171
HDLCH	77	63	75	66
LDLCH	129	88	128	92
	男	女	全体	
n	32	69	101	
HDLCH \geq 85mg/dl	12(38%)	14(20%)	26(26%)	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:成人病危険因子の効果的検出方法を検討する一環として、高コレステロール血症者を発見するために対象年齢や方法を変えて小児成人病健診を行い、以下の結果を得た。動脈硬化に関する血清脂質異常を効率よく検出する採血項目としては、血清総コレステロール単独か血清総コレステロールとHDLコレステロールの併用が良い。健診は低年令で行うよりは児童生徒で行う方が発見される異常者の絶対数は増える。ハイリスク者を選んで健診する方法は異常者の発見効率が高くなる。小児成人病健診を行う方法として学校単位での集団健診は有力な方法であるが医師会などの協力が得られれば病院、開業医を窓口にした方法をとることができる。と考えられた。